

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, regalo_nisioka@yahoo.co.jp

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者やご家族との関わり方に力を入れています。今年は、コロナの関係でご家族をお呼びしての大きな行事は中止ですが、月2回の写真を貼付しての便りや、ガラス越しの面会、又、電話での会話の支援に力を入れて、少しでも不安解消になるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市豊平区西岡の水源地通りに面した商店街に位置し、バス停から徒歩3分にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣に洋菓子店や飲食店などがある利便性のよい地区である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (1-4), 項目, 取組の成果 (1-4). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と階段、各フロアの正面に理念を掲げて毎朝見るようにして、実践に繋げるように指導しています。	事業所の理念は、職員で作成したもので、事業所内に掲示し利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎月のケア会議で確認し職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店など日常的に交流あるも、町内会への参加などが目標となっていたが、コロナの関係で進んでいないのが現状です。	日常的に近隣の商店に買い物など利用しており、施設オーナー始め地域の方や民生委員など交流がある。町内にはホームの案内パンフレットなどを配布しているが、コロナウイルス感染症対策で最近では交流が進んでいない。	コロナウイルス感染症対策で地域との交流が進んでいないが、町内会への加入や行事の際のボランティアの活用など地域との交流を今後期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の病院付き添いや、買い物支援などを通して、認知症の人の理解をしていただけるように努力しています。色々な店舗を利用することで、レガロ西岡の存在をアピールしていると思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	レガロ側の報告に終わらず、必ず、参加者の皆様からの意見や感想を伺うようにしています。意見をサービス向上に活かす努力をしています。ご家族の意見で、事故報告及び改善案を発表しています。	運営推進会議は、家族や地域の方、民生委員、地域包括支援センター担当者が参加して、定期的に開催し運営状況の報告や情報交換、意見交換などを行いサービス向上に活かしている。最近ではコロナウイルス感染症対策で書面会議だが、意見等も多く運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度改正や、計画作成で分からないことなどの質問を行ったり、地域包括の職員には、運営推進会議に必ず参加して頂くなどしています。区の管理者会への参加が課題です。	運営推進会議に地域包括支援センター担当者が参加しており、定期的に意見交換や情報交換しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会やユニット会議で話し合い取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を設置して、指針やマニュアルを整備し3ヶ月に1回検討会を行っている。法人主催の研修会年1回、内部研修も年1回実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の身体拘束廃止委員会や、毎月のユニット会議で話し合い、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、成年後見人制度を利用されているご入居者がいます。又、OffJtでの研修の機会を設けており、理解を深める努力をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解していただけるように努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回(奇数月)運営推進会議を開催して、意見を聞くようにしています。又、参加できなかったご家族等には、会議録と広報を送っています。	ホーム便りを2ヶ月に1回発行して、家族に運営状況の報告をしている。また利用者毎の写真付きの手紙も毎月家族に送付している。家族の訪問が多く、家族からの意見や要望は、来訪時に殆ど聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議での意見交換や、面談を定期的に行い意見を聞くようにして、必要な際は業務に関する改善をするようにしています。	ユニット会議は毎月行っており、全体会議は年1~2回開催している。個人面談は、年2回定期的に実施しており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度や、資格手当のアップなどに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修の機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内ではネットワークができていますが、法人外では営業などで情報交換や施設見学などを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談の中で、話を傾聴し、聞き出すことで、良い関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の中で、今までの苦労等を傾聴して関係作りに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に、環境に慣れることができるように努力しています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを、スタッフと一緒に出来るようにしています。キッチンでの仕事、掃除、洗濯物たたみ、畑の収穫作業、トレー拭きなど役割を持った生活の支援をしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大きな行事の際のお手伝いの協力(コロナの関係で中止)や、スタッフが同行できない際の受診のお願いをするようにしています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を繋いだり、手紙のやり取りや、年賀状の作成又発送の支援を行っています。	利用者は地元出身が多い為、家族や友人、知人の来訪が多い。元教員の利用者には、教員の子などが訪ねてくる。来訪時には、近くの飲食店や買い物などに行っているが最近ではコロナウイルス感染症対策で面会制限を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	度々トラブルはありますが、入居者同士の関係性が良好であるように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去となった方のお見舞いや、家族様からの問い合わせには誠実に答えるように努めています。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分ではないが、希望、意向に添えるように努めています。例えば食事内容や、やりたいことなど。	日常生活の中で、本人の希望や意向に沿えるよう努めている。外食の際には何を食べたいか、外出は何処に行きたいかなど本人の意向を確認して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、十分な情報収集を行うように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご入居者の状態を観察するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での話し合いや、ご家族の意見も反映させた介護計画の作成に努めています。	本人や家族の意見や要望等の情報収集を作成担当者がまとめて、ケア会議でモニタリングを行い、職員全員で検討し利用者の現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや記録で情報を共有、ユニット会議などで意見を出し合い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を行うように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園等への散歩、近隣の店舗への買い物など地域資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の大谷地病院からの往診を、スムーズに受けられるように支援しています。	協力医療機関の医師と看護師の往診が月2回だが、日常の連絡は電話と電子メールで医療機関と繋がっており、24時間対応の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師はおりませんが、主治医と電話やメールで状況を伝え指示をいただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の大谷地病院をはじめ、他の医療機関とも情報交換に努め、連絡を密にとるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化した際の指針について十分に説明して文書を交わしています。	重度化や終末期の対応については、入居契約時に事業所の対応方針を説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医の指示のもと協力医療機関との24時間体制の医療連携支援で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に実習を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えたランタン、懐中電灯、カセットコンロを用意、又、目標だった食料品の備蓄の整備を行いました。年2回の避難訓練も行っています。	火災の避難訓練は、年2回定期的に行っており、内1回は消防署の指導の下に実施している。懐中電灯やカセットコンロなどの備品、飲料水や食品などの備蓄も整備して、災害対策を行っている。	定期的に避難訓練を行っており、備品や備蓄も整備して災害対策を行っているが、災害時に備えての地域との協力体制の構築を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修や、都度言葉がけに対するの注意をするようにしています。	人格の尊重やプライバシーについては、法人内で接遇研修を定期的に行っており、声掛けや言葉使いなど注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、やりたいことの希望を聞き、実践するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	つついホーム側の都合になってしまっていることがあります、希望に添えるように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マネキュアだったり、好みの洋服選びなど、入居者様に合わせた支援を心がけています。又、爪切り等の保清にも気を付けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの関係で、現在は一緒に食事を摂ることはしていませんが、準備や、後片づけと一緒に行うようにしています。	食事は外部委託だが、温かいものを提供している。利用者は配膳や片付けなど手伝っている。調理レクは、お好み焼きやパンケーキなどで、外食は自粛しており、行事食は出前の寿司やうな丼、ピザなどで利用者の食べたいもの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量のチェックを行っています。咀嚼、嚥下の状態に応じて、食事形態の見直しを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える入居者様はご自身で行っていただきますが、終了後は磨き残しがないかの点検を行っています。毎食後、ご入居者の口腔内の状態をチェックするようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に合わせてトイレ誘導を行って、失禁を減らすように支援しています。又、布パンツへとオムツ外しに成功した入居者様もいます。	利用者個々の記録簿から排泄パターンを把握し職員間で共有して、時間や表情、仕草を見ながら声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳やヨーグルトを提供したり、毎日の体操で運動の働き掛けを行うなど、予防に取り組んでいます。便秘症の方には多めの水分を勧めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ゆったりと気持ちの良い入浴を心がけるようにしています。拒否される際は、無理強いせず、曜日を変えたり、時間を変えるなどの対応をしています。毎週日曜日に2時間入浴されるご入居者がいます。	浴室は、1階は機械浴で、重度の利用者も入浴可能である。入浴は週2回で、曜日や時間など利用者の状況に合わせて、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れがみられた際は、臥床していただいたり、習慣で自ら居室で休まれるご入居者もいます。昼夜逆転を防ぐため、日中の活動量を増やすように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、薬情を確認するように指導しています。又、2名で、日付、名前、顔を確認するなど、誤薬のないように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分とは言えませんが、畑を作って、実った野菜を収穫する喜びを一緒に味わったり、お手伝いや、散歩での気分転換の支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、コロナの関係でできておりませんが、花見ドライブや、近隣の散歩や日光浴などの支援をしています。	近隣の散歩や敷地内での外気浴は日常的に支援している。外出行事は、天神山公園や桜の花見、小金井の紅葉ドライブなどの外出支援をしているが、最近ではコロナウイルス感染症対策で外出行事の自粛をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所での預かりとしていますが、買い物支援の際は、財布を持っていただき、自身で会計をしていただく支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルはスタッフがしますが、電話がしたいとの訴えの際は都度対応しています。ご家族への年賀状作成の支援や手紙作成の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り物で、季節感を味わっていただく工夫をしています。ソファで寛いだり、ベランダでの日光浴、玄関前のベンチでの日光浴の支援も行っています。	共用空間は、建物中央に位置し、採光や風通しもよく、広く明るく感じる。温度や湿度も管理し床暖房で暖かい。1階にはベランダがあり、外には一坪の菜園がある。壁には季節の飾り物や行事の写真が掲示され、楽しいひと時が感じられる。利用者はゆったりとしたリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と、気の合うご入居者が集まりゲームなどで楽しんでます。居室へ戻って休まれるご入居者もいて、思い思いに過ごされていると思います。1階、2階のご入居者との交流も支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵を貼ったり、写真を飾ったり、荷物をまとめたり、自由に居室を使用していただいています。又、入居の際は、馴染みの品を持参してもらえるようにご家族にお願いしています。	居室には、ベットとクローゼットが設置しており、1階と2階には各1室のみ洗面台が設置している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活を送れるように、ご入居者に意見を聞いたり、ご家族に意見を聞いたりしています。又、居室やトイレが判らなくなるご入居者には、入り口に大きく名前を貼ったりと工夫をしています。		